

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4271501019
法人名	株式会社 ウェル
事業所名	グループホーム 徳ちゃん
所在地	〒857-0414 長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3 (電話) 0956-69-3012

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年4月7日

【情報提供票より】(H20年2月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り 階 ~ 階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	9,000円・実費
敷金	有 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(2 月 8 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院・北松中央病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元住民の利用者が多く、家族が訪れやすい場所にある当ホームは、明るく広いサンルームがホーム内部を明るくする効果があり、利用者は自由に過ごされている。地域住民との関わりが広く、ホーム主催の「夏祭り」には毎年多くの住民が参加されている。法人の理念として「自然に囲まれ、地域との交わりの中で、高齢者、障害者、及び社会的弱者であっても社会参加できる環境作りをしていきたい。子供からお年寄りまで地域において福祉・文化・教育・自然環境をテーマに活動を行います。」掲げられて全職員が常に理念を意識して、介護の実践をされており、職員の明るい雰囲気、利用者から笑顔をもたらしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の個性を重視した介護計画の作成に向けて、職員会議を増やし職員の意見を出し合い、家族からの要望取り入れる等、具体的な取り組みが実行されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、改善すべきところが分かり、サービスの質の向上に努めている。外部評価はホームでは自覚しない改善部分が分かり、研修への参加意欲の向上や介護計画の見直しを更にしっかり取り組む姿勢が窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年5月より取り組みをされている。2~3ヶ月に1回開催し、参加者は市職員や民生委員、地区代表者、利用者の家族3名が来られる。現状報告や意見交換など活発にされており、意見を参考に、職員の名札を付ける事はすぐに取り組み、実行されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	地域住民の利用者が多く、週1回程度家族が来訪されている。その時に利用者の健康状態や生活情報を伝えており、金銭出納帳は毎月、家族訪問時に確認と捺印をもらい、遠方の家族にはコピーして、ホーム便りなどと共に本人の生活状況等が報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣住民とは顔馴染みの関係が成立しており、散歩や買い物時などで挨拶や世間話などされている。又、住民が自宅で作った野菜や草花を持ってこれら交流が活発にある。自治会に加入されており、回覧板で「ホーム便り」を読んでもらえるよう自治会との連携を持たれ、「理念」の浸透を図っている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年に、地域での生活を意識して【認知症であっても安らかにその人らしく生き生きと】に理念を見直されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース検討会議の最初に参加職員で「入居者一人ひとりの生活のリズムに合わせた対応になっているか」「声かけ、笑顔に気をつけているか」など理念に照らし合わせた確認をされている。【楽しく、安らかに】が自然体であることを目指した取り組みをされている。又、フロアなどにさりげなく「理念」を掲げられ、職員への意識付けをされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは顔馴染みの関係が成立しており、散歩や買い物時などで挨拶や世間話などされている。又、自宅で作った野菜や草花を持って来られるなど交流が活発にある。自治会に加入されており、回覧板で「ホーム便り」を読んでもらうなど「理念」の浸透を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通して前回の改善内容を改めて実感されている。又、自己評価や外部評価受審を1年に1回「気付きが得られる機会」と前向きな捉え方をされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月より取り組みをされている。2～3ヶ月に1回開催し、参加者は市職員、地区代表と、家族3名が来られる。現状報告や意見交換など活発に交わされており、意見を参考に職員の名札を付ける事は、すぐに取組まれ、実行されている。		

グループホーム 徳ちゃん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当職員が毎回参加されている。今後は会議以外でも、相談や連絡など連携を密にする事が大切であることを理解されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	地域住民の利用者が多く、週1回程度家族が来訪される。その時に利用者の健康状態や生活状況を伝えている。遠方の家族等には、電話や便りに利用者の生活状況などを報告されている。利用者の中には自己責任で管理できる額を持たせている方もおり、家族面会時に補充をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、意見等、入る事はない。家族会を定期的開催し、家族の意見を出しやすい雰囲気づくりに留意されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間の異動は殆どなく、新規採用者については、ベテラン職員が指導するが、元気な利用者が教えてくれるなどされており、利用者へのダメージは極力避ける工夫をされている。運営推進会議で指摘された「名札」は実行の取り組みをされ職員全員が着用している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、パートに関わらず研修受講の機会を設けられており、復命対応の支援もされている。研修受講後はケース検討会議や資料の配布をするなどして、職員間の情報の共有や職員の質の向上に努められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への加入はしていないが、近隣の同業者と交流の機会を作っている。自治体が異なる為、情報の共有が困難な状態となっている。	○	近隣の同業者と交流は持てるが、佐世保市内から遠い地域なので、佐世保市の連絡協議会への加入により、サービスの質の向上の可能性が広がることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域住民の高齢化が進んでおり、利用者と顔馴染みの住民が訪問しやすい環境になっている。利用希望者宅への訪問や、ホーム内見学時間を長くしていくなど、馴染みながらの利用支援がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と共に過ごす中で、利用者を『人生の先輩』という視点で日々の介護に励まれている。利用者が職員を『励まし たまには叱る』など、お互いの思いを共感することで支え合う関係を築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と職員が共に暮らす中から、一人ひとりの生活リズムや表情・行動をよく把握し、職員の仕事のペースを優先させない支援がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>改善項目として取り組みを行い、職員会議を増やしている。家族からの要望や職員会議の中で意見を出し合い、利用者の個性を重視した介護計画の作成に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、2時間以上かけて計画の見直しを行っている。現状に即した見直しは随時行われている。</p>	○	<p>個別記録の充実を図ることにより、利用者の立場となって計画の見直しをされることが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じた送迎などの支援が行われている。自宅で暮らす認知症の方で、生活が限界になった方の受け入れ(ショートステイ・デイサービス)などを検討されている。	○	地域へ向けた研修会などへの取り組みの意向を示されているので、サービスの質の向上に繋がる取り組みとして期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの関係者が、地域のホームドクターとして信頼を寄せられている。緊急時などにおいても、常時連絡を取ることができ、必要時は別の病院への受診時も連携の確保がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	1ユニットに看護師が勤務している。利用者の高齢化や重度化などに伴い、(どのような介護ができるか)を看護師、医師、職員間、そして家族と利用者を含めて話し合いを行ない、納得してもらえるように努められている。職員は日常の健康管理や急変時の対応がスムーズに行くよう方針の統一を図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を意識しながら介護の実践をされている。記録類は利用者から見えない場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の業務の流れに利用者を合わせる事がないよう、最大限の努力をするように職員全員が心掛けている。		

グループホーム 徳ちゃん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いができる利用者には状況に合わせて職員と共に準備、後片付けなどをされている。同じ食事を職員も同じテーブルで食べながら、観察、支援がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は、シャワー浴を合わせて行い、入浴日は利用者のタイミングに合わせて支援が行われている。現在は佐世保市の湯水対策で節水指導があつている為、週2回入浴を実施されているが、その時の状況により、臨機応変に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下ごしらえや簡単な調理、後片付けや野菜作りなど本人が楽しんで出来る事を、利用者の日々の体調に合わせてしてもらおう。職員が言う「感謝の言葉」で張りがある生活を送られるような支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物への同伴や、近所の散歩など利用者の希望をなるべく取り入れた外出の支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。外出傾向がある利用者があるが、最近では落ち着かされている。時々、一人で出かけられているのを、近隣住民がさりげなく声をかけて下さり、見守りなどの連携がとられている。昼間は玄関に鈴をつけるなどされ、インターホンに接続されているモニターが事務所に設置されている。	○	インターホンのモニターは事務所にあるが、事務所に職員が常駐していない為、万が一不審者の侵入を見逃す可能性もあるので、職員が目が届き易い場所に設置されることが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防用設備は充実しており、スプリンクラーは平成20年1月に設置が完了している。消防署立会いの消火、避難訓練などは年2回、ホーム独自の防火訓練なども随時行われている。	○	火災以外の自然災害時の取り決めなど、今後の検討課題として取り組まれることを期待する。

グループホーム 徳ちゃん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が栄養管理表などを参考に作っている。水分や食事残量のチェックなど、細かく行い、栄養改善を検討されている。	○	市町村の管理栄養士や保健師に専門的なアドバイスを受ける意向を伝えられた。栄養ケアなど全般について、専門的指導を受けられることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、季節の花を利用者が生けられ、裁縫が得意な利用者の作品展示など「自宅の延長」のような生活の工夫がされており、サンルームも自由に利用されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた家具が持ち込まれており、家族の写真を置いたり、手作りカレンダーを飾る等、個性的な居心地の良い部屋の工夫がされている。		